科目名	視覚機能検査学演習	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　池田結佳　講師　渡部　維　講師　広田雅和					科目ナンバー	T1C110
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	臨床で行う検査を想定し、弱視・瞳孔異常などの視覚機能異常について考察する。
授業の到達目標	①網膜形態と視機能発達の観点から弱視について説明できる。 ②被検者の特性を踏まえた視機能検査について説明できる。 ③適切な方法で視覚電気生理検査のデータ取得と解析ができる。

授業計画

回数	担当者		行動目標
1	渡部　維	講　師	弱視の網膜形態について説明できる。
2	池田　結佳	教　授	弱視と視機能発達について説明できる。
3	池田　結佳	教　授	弱視研究の現状について説明できる。
4	池田　結佳	教　授	弱視研究の現状について説明できる。
5	池田　結佳	教　授	被検者の特性を踏まえた視機能検査について説明できる①高齢者
6	池田　結佳	教　授	被検者の特性を踏まえた視機能検査について説明できる②小児
7	池田　結佳	教　授	被検者の特性を踏まえた視機能検査について説明できる③発達障害児
8	広田　雅和	講　師	視覚電気生理検査のプロトコルについて理解できる。
9	広田　雅和	講　師	視覚電気生理検査の刺激について理解し、適切な記録ができる。
10	広田　雅和	講　師	視覚電気生理検査で取得したデータを解析出来る。
11	池田　結佳 広田　雅和	教　授 講　師	テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
12			テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
13			テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
14			テーマを決め、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
15	池田　結佳	教　授	講義の振り返りと習熟度確認

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおく。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておく。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し復習しておく。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子:「視能学」第2版文光堂 その他、その都度指定する。
参考書	
成績評価の方法および基準	レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。欠席は1回につき5点減点、遅刻・早退は1回につき2点減点とする。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップDP1を参照し理解すること。